

フォトニュース

「つどいの広場」で高校生がボランティア活動



▲8月2日～同31日まで、子育て支援センターでは、夏休みを利用して高校生ボランティア3人(男子1人・女子2人)が子育て支援センターで「つどいの広場」に参加し、保護者や子ども達との交流を深めました。

参加した高校生ボランティア達は、「はじめは小さい子どもとどう接していいか悩みましたが、関わっていくうちにニコニコしてくれてうれしかった」など、つどいの広場に参加する中で、さまざまな経験や発見がありました。

人権を考える町民のつどいを開催



▲8月20日、文化体育館で「人権を考える町民のつどい」を開催し、約120人が参加しました。

つどいでは、人形劇を通じて子どもが元気に成長するために大切なことがわかりやすく上演され、人権についての学習を深めることができました。

泳いで・こいで・走って



▶8月18日、午前9時から猪名川小学校で、第2回夏休みミニトリアスロン大会が開催されました。

当日は、約150人の小学生が集まり、トリアスロン選手達の見本演技を見た後、指導を受けながら、水泳・自転車・走るに挑戦！暑さをもとめせず、一生懸命泳いで・こいで・走って、全員がトリアスロンに、最後まで競技することができました。

いな 歴史ウォーク 102

明和5年の銀山町

多田銀銅山の最盛期は江戸前期の寛文年間(1661～1673)ですが、約百年後の「明和5(1768)年 銀山町 明細帳」が地元に残されており、当時の町の様子が詳しく書かれています。それによると、家数86軒、内50軒は持家で「百姓かね掘」、36軒は借家「かね掘」です。この36軒は各鉱山を気軽に行き来する鉱山従事者なのでしょう。人口は総人数309人、男165人は「かな山稼キ」と「耕作」を、女144人は「かな山のわりもの」をしているとあります。町内にある土橋5カ所は、すべて幕府が費用を持つ公儀橋です。

鉱石を精錬する吹屋は3軒、古道具買商人が4～5人、米商人、酒屋、質屋、鍛冶屋、いかけ屋が各2軒、小間物商、傘屋、医師が各1人、魚売2人が町内で営業しており、まだ賑わいがありました。弘化2(1845)年には、家数43軒、人口162人となり、内29軒が「銅山稼渡世之者」となっています。



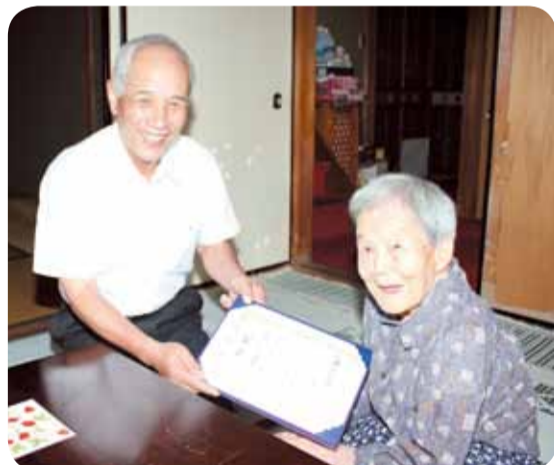
▲現在の銀山の街並み

3中学校の生徒会役員が交流



▲8月4日、町内の3中学校の生徒会役員17人が集まり、各中学校の生徒会活動について意見を交換する、生徒会役員夏季交流会が行われました。「学校をより活性化させるために」を議題に、それぞれの中学校が抱える悩みごとなどについて話し合い、交流を深めました。各中学校とも、積極的に手を挙げて質問や回答をし、自分達の学校をより良くするためにはどうしたらいいのかを真剣に話し合いました。

町長が長寿のお祝いに高齢者を訪問



▶敬老福祉月間の9月1日、福田町長が今年100歳を迎えられる西山コイトさんを訪問し、祝状の贈呈と長寿のお祝いの言葉を贈りました。西山さんは「家にあるものを何でもありがたいていただいています。今後も家族に囲まれて元気に過ごしていきたいです」とお礼の言葉を述べられました。8月31日現在、町内の100歳以上の高齢者は14人(男2人・女12人)。最高齢者は、明治39年生まれの104歳の女性です。

▼とめとはねや、字を大きく書くことに注意して書きました。上田 みずきさん(4年)



白金小学校



◀一筆一筆丁寧に世界に一つのチョウを作りました。佐藤 由菜さん(黄色) 田上 なうさん(赤色) 川元 慎也さん(青色) (いずれも2年)

▼「太」の右はらいと「陽」のバランスに気をつけて書きました。西田 健人さん(5年)

4年 上田みずき 月光



▼海と昆虫の世界を合わせて、街みたい「長い長い絵」を描きました。(3年の合同作品)

5年 西田健人 太陽